社会学オンライン・グループワークの課題と合理化の試み

山口賢一（社会学）

教育上の課題と工夫

コロナウィルス感染拡大の影響で、社会学の授業をオンライン配信せざるを得ない状況が生まれた。教育上の一番大きな課題は、遠隔でグループワークを正常に機能させる方法であった。社会学の授業では、抽象的なコンセプトや理論を「理解」して、具体的な事例についてクラスメイトと話し合いながら「応用」する場としてグループワークが有用である。少人数を対象とした対面授業であれば、グループワークのファシリテーションを通して教員がこの「理解」と「応用」をサポートし、授業内プレゼンテーションなどのアウトプットから学習状況の確認が可能である。遠隔授業ではこのファシリテーションと学習状況確認の手段が制限されるため、本年度の授業では、学習到達目標の明確化とフィードバック・ツールの開発により、グループワーク学習を合理化することに努めた。

学習到達目標の明確化については、ベンジャミン・ブルームのタキソノミー（記憶、理解、応用、分析、評価、創造）を例示しながら、社会学コンセプトの理解と応用までを学習レベルのゴールとして定めた。具体的なコンセプトとしては、ライト・ミルズが提唱した「社会学的想像力」の理解と応用を本授業の最終目標とし、各授業では「規範」や「逸脱」といった社会学の基礎コンセプトを応用した社会事象や問題についての考察をグループワークの課題とした。また、グループワークの結果をレポート形式で提出させることにより、受講生がコンセプトをしっかりと理解し、適切に応用できているのか確認することができた。

従来の対面授業では、カナダ・サスカチュワン大学のジョン・トンプソン元教授が開発したフィードバック・ツール「One Minute Memo」を利用して、受講生個々の学習状況、疑問、意見を汲み取っていた。遠隔授業では、特にグループワークの学習状況を確認するために、個々の受講生からではなく、グループごとに学習状況と疑問点、メンバーの役割をまとめてレポートできる様式を作成した。学習状況と疑問点を記述するためには、グループメンバーが意見を出し合い、話し合い、ポイントを整理する必要がある。設問に回答するだけでなく、学習内容と疑問点についてグループでリフレクトするプロセスは受講生の学びに有用であったと考えている。また、疑問点については、翌回の授業でまとめて紹介し回答することで、受講生全体の復習の機会とした。

With コロナに向けて

グループワーク合理化の試みは、教員として目指してきたディスカッションを中心とした自由で想像力溢れるクラスルーム作りからは逆行している部分もある。しかし、到達目標の明確化とグループワークのフィードバック様式によるアウトプットの焦点化は、特に大人数を対象とした授業では有効な教育手法となり得る。コロナ禍で思考錯誤しながら生み出した合理化ツールを活用しながら、今後も学生にとって有効な授業の形態を模索していきたい。